

尾形先生を送る言葉

渡 邊 眞 理 子

修士課程が創設され、私は院生第一号として、一年間尾形先生の個人教授を受けるという幸運に恵まれ、大層贅沢な勉強をさせていただいた。先生の授業では、ポーの詩とエマスの『アメリカの学者』を学んだ。また、先生は指導教授として、私のようなできの悪い者の修士論文作成を、根気よく御指導下さった。力不足を痛感しつつ、幾度か先生に、もう一年頑張りたいと相談に行った。先生はその度に、期限内に作成するよう励まして下さった。そのおかげで、どうにか二年で修士を終了することができた。

現在私は、高校で教えながら、大谷女子大学大学院で学んでいるが、博士課程に進むようアドバイスして下さったのも先生である。教えながら学ぶという毎日の中で、先生からもっと貪欲に学んでおかなかったことが、今更ながら悔やまれる。修士の二年間はあまりにも短かったように思える。

自由闊達でユニークな先生は、「僕は禁酒禁煙を申し渡されているんだ」と、おいしそうにタバコを吸ったりして、よく人を驚かせておられた。「もう年だから誰も相手にしてくれないんだ」などと冗談を言われるが、学問的にも人格的にも、先生から影響を受けない者はない。学生の人格を認め、その意見を尊重して下さる先生は、学部生にも人気がある。

研究室での授業は、学問的な事柄に関しては厳しさがあったが、実にリラックスした雰囲気のうちに行われていた。先生の個性的なお人柄は、そこでの余談にも表れる。ご自分の体験や、その時々々の世情などを、冗談を交えながら、独自の視点から話されるのだが、「尾形先生語録」なるものを作成したらきっと面白いと思えるほど、ユニークでウィットに富んだものであった。そして、最後は必ず、エマスやソーロウなどの文学の話題になった。

また、『ルバイヤマト』をこよなく愛される先生は、ロマンティックな詩人でもある。先生は詩人の大胆で情熱的な心と、冷静で緻密な研究者の精神を同時に備えておられる。そしてそのどちらにも、妥協を嫌う真剣さが感じられる。それら二つの面が、昨年先生が出版された『ウォルドー・エマソン』にも遺憾なく発揮されている。

長年のエマソン研究の集大成ともいえる『ウォルドー・エマソン』の著述に精根を傾けられ、「疲れたからしばらくゆっくりするよ」とおっしゃっていたが、先日お目にかかった時には、「期待していて下さい」と、もう次の著述に取りかかっておられるご様子。そのエネルギーに著述活動には脱帽するしかない。

少し体調をくずされていた時期もあり、周囲の私たちも心配していた。しかし、先生はどんな時にも、何か面白い事を発見される。ご自分の体の不調も、先生の研究心の対象となっていたようである。先生には人生を楽しもうとする姿勢が感じられる。

この度先生は、停年を迎えられ、ご退職になられる。先生から受ける印象は、世間的な「停年」というイメージとは程遠い。「太く長く生きる」が先生のモットーだと聞いたことがあるが、先生はこの度の停年を一つの区切りとして、これからはますます多方面にご活躍されるに違いない。どうか健康に留意されて、引き続き佛教大学でご指導いただき、後輩たちに「尾形先生語録」に接する機会を作っていただきたい。

遅くスタートした私が、曲りなりにも研究を続けていられるのは、佛教大学での尾形先生をはじめ、諸先生方のご指導の賜物である。時がたつほどに、尾形先生がおられる佛教大学で学ぶことができた幸運が一層感じられる。こういった表現は不謹慎かもしれないが、私は尾形先生の大ファンである。心からの感謝をこめて、この拙文を尾形先生を送る言葉にしたいと思う。